

柏木教会月報

9月号

東京都新宿区北新宿3-1-18 ☎ 03-3368-2156 www.church.ne.jp/kashiwagi/

あなたに欠けているもの

マルコによる福音書 一〇章一七～二二節

牧師 富永 壽司

イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行つて持つている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」(二二節)

一人のお金持ちが主イエスの前にひざまずき、教えを乞いました。このとき、主イエスはエルサレムへの最後の旅に出かける直前でした。主は、そこで十字架刑により殺されます。ですから、この人は、この機会を逸した
ら二度と主イエスにお会いすることはできませんでした。その意味で、これは一期一會の出会いとなりました。

聖書には、「主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。呼び求めよ、近くにいますうちに。」(イザヤ五五・六)とのみ言葉があります。神さまが命の出会いのために備えてくださる恵みの時があるのです。それを逸し、神に従う決断を先延ばしにするようではいけないのです。ところで、この男の人は、なぜ主イエスのところに来たのでしょうか。彼は大金持ちでしたが、決して幸福ではありませんでした。心の奥底には、お金では埋めることのできない空虚さがありました。

彼は、その虚しさを埋めるために、これまで有り余るほどの富をもつて、いろんなことを試みたことでしよう。しかし、どうしても彼の心の隙間は埋めることができなかつた。人間存在の深いところから沸き起つてくる空しさはなくならなかつたのです。

それはそうです。まことの神に立ち返り、神の子としての歩みが回復しないと、人間はそれ以外のどんなものをもつとしても、心の空しさを埋めることはできないのです。かつて、アウグスティヌス先生は告白しました。「神よ、あなたはわたしたちをあなたの自身に向けてお造りになりました。ですから、わたしたちはあなたの胸に憩うまでは、安きを得ません。」と。そのとおりです。ですから、主イエスはつきりとおっしゃいます。

「あなたに欠けているものが一つある。行つて持つている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」

今までの彼は、色々修行も善行も積んできました。それでも何か足りないから、更にもう一つ、という思いでいるのです。しかし、主イエスから見れば、彼に足りない欠けたものは、彼の蓄積に更に花を添えるような付け足しの何かではないのです。つまり、自分の財産を貧しい人たちに施す慈善の業が一つ足りないと言つているのではなく、神の前に自分の力や持つてあるもので立とうとする歩みそのものの放棄を求められたのです。

それが「天に富を積む」歩みであり、主イエスに従う歩みなのです。主イエスに従うことを行なっているところに、永遠の命はないのです。